

樞密院會議筆記

朝鮮教育令改正ノ件  
奏任文官特別任用令中改正ノ件

昭和十三年二月二十三日(水曜日)午前十時十五  
分開議  
聖上臨御不被為在

出席員

平沼議長

原 副議長

大臣

鹽野司法大臣 八番

大谷拓務大臣 十五番

顧問官

櫻井顧問官 卅一番

河合顧問官 卅二番

鈴木實太郎顧問官 卅三番

有馬顧問官 卅五番

窪田顧問官 卅六番

鈴木滋顧問官 卅八番

石塚顧問官 卅九番

清水顧問官 三十番

藤澤顧問官 卅一番

林 顧問官 卅二番

南 顧問官 卅四番

田中顧問官 卅五番

奈良顧問官 卅六番

荒木顧問官 卅七番

松井顧問官 卅八番

菅原顧問官 卅九番

松浦顧問官 四十番

關席員

皇族

雍仁親王 一番

宣仁親王 二番

崇仁親王 三番

載仁親王 四番

大臣

近衛内閣總理大臣 五番

廣田外務大臣 六番

米内海軍大臣 七番

杉山陸軍大臣 九番

永井遞信大臣 十番

賀屋大藏大臣 十一番

有馬農林大臣 十二番

吉野商工大臣 十三番

中島鐵道大臣 十四番

木戸文部大臣  
兼厚生大臣 十六番

末次内務大臣 十七番

顧問官

金子顧問官 十九番

黒田顧問官 二十番

石井顧問官 廿四番

元田顧問官 廿七番

上山顧問官 卅三番

委員

船田法制局長官

樋貝法制局參事官

棟居拓務省管理局長

植場拓務省殖産局長

以上各件二付

大野朝鮮總督府政務總監

鹽原朝鮮總督府學務局長

以上朝鮮教育令改正ノ件二付

山本臺灣總督府事務官

奏任文官特別任用令中改正ノ件二付

報告員

櫻井審査委員長

朝鮮教育令改正ノ件二付

村上書記官長

奏任文官特別任用令中改正ノ件二付

書記官

堀江書記官

武藤書記官

欄  
密  
障

議長

(平沼)

之ヨリ會議ヲ開ク

朝鮮教育令改正ノ件

ヲ議題ニ供ス第一讀會ヲ開キ朗讀ヲ省略シ

テ直ニ審査委員長ノ報告ヲ求ム

報告員

(櫻井)

今回御諮詢ノ朝鮮教育令改正ノ

件ニ關シ本官等審査委員タルノ命ヲ受ケ本

月十七日委員會ヲ開キテ國務大臣及關係諸

官ノ辯明ヲ聽キ以テ之ガ査覈ヲ遂ゲタリ

現行朝鮮教育令ニ依レバ朝鮮ニ於ケル各種

ノ教育中普通教育ニ關シテノミ國語ヲ常用



スル者内地人ト國語ヲ常用セザル者朝鮮人トニ依リ其ノ機關ヲ殊別シ前者ニ對スルモノハ小學校、中學校及高等女學校、後者ニ對スルモノハ普通學校、高等普通學校及女子高等普通學校トシ特別ノ事情アル場合ニ限り右ノ兩者相互ニ他ノ學校ニ入學スルコトヲ得ルノ特例ヲ存スルニ止マル然ルニ當局ノ説明ニ依レバ此ノ學制ノ施行既ニ久シキニ互リ其ノ間朝鮮各般ノ文化及經濟ノ發達ニ伴ヒテ朝鮮人ニ對スル教育モ亦漸ク向上シ今

ヤ普通學校、高等普通學校及女子高等普通學校ノ教育ノ内容ハ小學校、中學校及高等女學校ノ其レニ比シテ略々異ナル所ナキニ至レリ而シテ輒近朝鮮ニ於ケル一般民心ノ動向ハ頗ル靜謐堅實ニシテ特ニ今次事變ノ勃發以來帝國臣民タルノ自覺ヲ深クセルコト顯著ナルモノアリ斯カル趨勢ヲ適度ニ助長スル爲メ有效ナル施設ヲ講ズルハ固ヨリ當然ノ措置ナルベキが故ニ朝鮮統治ノ根本義ニ照シ殊ニ朝鮮教育令ハ本來内鮮人ノ共學ヲ

主旨トスルニ考ヘ竝ニ朝鮮民衆ノ宿望ヲ察  
 シ茲ニ朝鮮人ニ對スル普通教育ノ機關ヲ内  
 地人ニ對スル其レニ統合シテ同ジク之ヲ小  
 學校、中學校及高等女學校トスルノ議ヲ定メ  
 此ノ趣意ヲ主眼トシテ朝鮮教育令ノ現行規  
 程ニ相當ノ改正ヲ加ヘントスルナリ  
 本件ハ朝鮮教育令全部改正ノ形式ヲ採リタ  
 ルモ其ノ實質ニ於テハ同令ノ現行規程中國  
 語ヲ常用セザル者ニ對スル普通教育ニ關ス  
 ル部分及之ニ牽聯アル師範教育ニ關スル部

分ニ改正ヲ加ヘントスルモノニシテ其ノ要  
 旨ハ左ノ如シ  
 普通教育ハ國語ヲ常用セザル者ニ對シテモ  
 亦國語ヲ常用スル者ニ對スルト同ジク本則  
 トシテ小學校令、中學校令及高等女學校令ニ  
 依ルコトニ改メ從テ國語ヲ常用セザル者ニ  
 對スル普通教育ノ機關タル從前ノ普通學校  
 高等普通學校及女子高等普通學校ニ關スル  
 條規ハ總テ不要ト爲ルニ由リ之ヲ削除シ特  
 別ノ事情ニ因リ國語ヲ常用スル者ヲシテ普



通學校、高等普通學校又ハ女子高等普通學校ニ入學セシメ國語ヲ常用セザル者ヲシテ小學校、中學校又ハ高等女學校ニ入學セシムルコトニ關スル條規モ亦之ヲ削除ス而シテ從前ノ普通學校、高等普通學校及女子高等普通學校ハ各之ヲ改正規定ニ依リ設立シタル小學校、中學校及高等女學校トスルノ外一二ノ經過規定ヲ設ク而シテ當局ノ説明ニ依レバ内地人ニ對スルト朝鮮人ニ對スルトノ普通教育ノ機關ニ於ケル從前ノ種別ハ此ノ改正

ニ因リ名義上全ク解消スルモ其ノ實體ニ於テハ必ズシモ直ニ内鮮人共學ヲ施行スルニ非ズシテ現ニ存在スル學校ニ在リテハ概ネ沿革ニ從ヒテ現状ヲ維持セシムベク又今後設置スル學校ニ在リテハ其ノ經費負擔ノ都合其ノ他諸般ノ情況ヲ考慮シテ適宜ノ措置ヲ講ゼシムベシトノコトナリ

尚敍上ノ改正ニ伴ヒ師範學校ニ付テハ其ノ目的ニ於テ普通學校教員タルベキ者ノ養成ノ事ヲ削リ其ノ編制ニ於テ第一部員小學校教

スキ者モヲ教育及第二部キ普通者ヲ學校教育スルタルノ

區別ヲ廢シ其ノ附屬普通學校及之ニ代用スル公立普通學校ニ關スル條規ヲ削除ス

按ズルニ朝鮮統治ノ年來ノ方針ニ誓ヘ竝ニ

朝鮮ニ於ケル最近各般ノ情勢ニ照シ朝鮮教

育令ノ精神タル内鮮人共學ノ主旨ヲ更ニ一

層事實ニ表現スル爲メ朝鮮人ニ對スル普通

教育ノ機關ヲ内地人ニ對スル其レニ統一シ

兩者共ニ小學校中學校及高等女學校トスル

ハ趣旨ニ於テ事宜ニ適シ時要ニ合スルモノ

ト謂フヲ妨ゲズ唯教育ノ事タルヤ直ニ統治

ノ根本ニ觸レ其ノ影響スル所甚ダ深遠ニシ

テ固ヨリ容易ノ業ニ非ザルガ故ニ當局諸官

ノ常時周密ナル注意ニ由リ運用宜キヲ制ス

ルニ於テ始メテ其ノ成績見ルベキモノアル

ベシ而シテ前陳ノ趣旨ヲ主眼トスル本件朝

鮮教育令ノ改正ハ其ノ條項ニ於テモ別ニ支

障ノ廉ヲ認メズ仍テ審査委員會ニ於テハ本

件ハ此ノ儘之ヲ可決セラルベキモノト全會

一致ヲ以テ議決シタリ

右審査ノ結果ヲ報告ス

議長(平沼) 別ニ御發言ナキ故第二讀會以下ヲ

省略シテ直ニ採決スベシ本案賛成ノ各位ノ

起立ヲ請フ

(全員起立)

議長(平沼) 全會一致可決セラレタリ

○

議長(平沼) 次ニ

奏任文官特別任用令中改正ノ件

ヲ議題ニ供ス第一讀會ヲ開キ朗讀ヲ省略シ

テ直ニ審査報告ヲ爲サシム

報告員(村上) 謹デ此ノ件ヲ審査スルニ今般別

件ノ勅令ヲ以テ臺灣總督府税關官制ニ一部

ノ改正ヲ加ヘ其ノ奏任ノ職員中事務官專任

一人ヲ減シ新ニ關稅官專任二人ヲ置キ關稅

官ハ税關長ノ命ヲ承ケ税關ノ事務ヲ掌理ス

ルモノトスル旨ヲ定メ基隆及高雄ノ兩税關

ニ各一人ヲ配シ各税關ニ於テ稅務及一般ノ

事務ヲ取扱フ庶務課ノ課長ニ充テントスル

ニ付該官ハ其ノ職務ノ性質上竝ニ類似ノ先  
例ニ徴シ其ノ任用ヲ普通任用ノ資格アル者  
ノミニ限定スベカラザル事情アルニ由リ本  
件勅令ヲ以テ奏任文官特別任用令列記ノ諸  
官中ニ右臺灣總督府税關關稅官ヲ追加シ該  
官ハ同令所定ノ官歴アル者ヨリ高等試驗委  
員ノ銓衡ヲ經テ特ニ之ヲ任用スルコトヲ得  
ルモノト爲サントス乃チ本件ハ已ムヲ得ザ  
ル必要ニ出ヅルモノト認メラルルニ由リ此  
ノ儘之ヲ可決セラレ然ルベシト思料ス

右謹デ審査ノ結果ヲ報告ス

議長(平沼) 別ニ御發言ナキ故第二讀會以下ヲ

省略シテ直ニ採決スベシ本案賛成ノ各位ノ  
起立ヲ請フ

(全員起立)

議長(平沼) 全會一致可決セラレタリ

本日ハ之ニテ閉會ス

(午前十時三十分閉會)

議長男爵平沼騏一郎

書記官長村上恭一

書記官

松江季雄

武友盛雄

勅令第 號

朝鮮教育令

第一條 朝鮮ニ於ケル教育ハ本令ニ依

ル

第二條 普通教育ハ小學校令、中學校令

及高等女學校令ニ依ル但シ此等ノ勅

令中文部大臣ノ職務ハ朝鮮總督之ヲ



行フ

前項ノ場合ニ於テ朝鮮特殊ノ事情ニ依リ特例ヲ設クル必要アルモノニ付テハ朝鮮總督別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

第三條 實業教育ハ實業學校令ニ依ル但シ實業補習教育ニ關シテハ朝鮮總

朝二

督ノ定ムル所ニ依ル

實業學校令中文部大臣ノ職務ハ朝鮮總督之ヲ行フ

實業學校ノ設立及教科書ニ關シテハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依ル

第四條 専門教育ハ専門學校令ニ、大學教育及其ノ豫備教育ハ大學令ニ依ル



但シ此等ノ勅令中文部大臣ノ職務ハ  
朝鮮總督之ヲ行フ

專門學校ノ設立及大學豫科ノ教員ノ  
資格ニ關シテハ朝鮮總督ノ定ムル所  
ニ依ル

第五條 師範教育ヲ爲ス學校ハ師範學  
校トス

師範學校ハ特ニ徳性ノ涵養ニカメ小  
學校教員タルベキ者ヲ養成スルコト  
ヲ目的トス

第六條 師範學校ノ修業年限ハ七年ト  
シ普通科五年演習科二年トス但シ女  
子ニ在リテハ修業年限ヲ六年トシ普  
通科ニ於テ一年ヲ短縮ス

第七條 師範學校普通科ニ入學スルコ

トヲ得ル者ハ尋常小學校ヲ卒業シタル者又ハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ之ト同等以上ノ學力アリト認めラレタル者トシ演習科ニ入學スルコトヲ得ル者ハ普通科ヲ修了シタル者中學校若ハ修業年限四年以上ノ高等女學校ヲ卒業シタル者又ハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ之ト同等以上ノ學力アリト認めラレタル者トス

第八條 師範學校ニハ特別ノ事情アル場合ニ於テ尋常科ヲ置キ又ハ尋常科ノミヲ置クコトヲ得

第九條 尋常科ノ修業年限ハ五年トス

但シ女子ニ在リテハ之ヲ四年トス  
尋常科ニ入學スルコトヲ得ル者ハ尋  
常小學校ヲ卒業シタル者又ハ朝鮮總  
督ノ定ムル所ニ依リ之ト同等以上ノ  
學力アリト認メラレタル者トス

第十條 特別ノ事情アル場合ニ於テハ  
演習科ハ尋常科ノミヲ置ク師範學校

ニ之ヲ置クコトヲ得

第十一條 師範學校ニ研究科又ハ講習  
科ヲ置クコトヲ得但シ研究科ハ尋常  
科ノミヲ置ク師範學校ニ於テハ之ヲ  
置クコトヲ得ズ

研究科及講習科ノ修業年限及入學資  
格ニ關シテハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ

依ル

第十二條 師範學校ニ附屬小學校ヲ置

ク

特別ノ事情アル場合ニ於テハ公立小

學校ヲ以テ附屬小學校ニ代用スルコ

トヲ得

第十三條 師範學校ハ官立又ハ公立ト

ス

公立師範學校ハ道ニ限リ之ヲ設立ス

ルコトヲ得

第十四條 師範學校ノ教科編制設備授

業料等ニ關シテハ朝鮮總督ノ定ムル

所ニ依ル

第十五條 公立師範學校ノ設立及廢止

ハ朝鮮總督ノ認可ヲ受クベシ

第十六條 本令ニ規定スルモノヲ除ク

ノ外私立學校特殊ノ教育ヲ爲ス學校  
其ノ他ノ教育施設ニ關シテハ朝鮮總  
督ノ定ムル所ニ依ル

附則

本令ハ昭和十三年四月一日ヨリ之ヲ施

行ス

本令施行ノ際現ニ朝鮮ニ存スル普通學  
校高等普通學校及女子高等普通學校ハ  
各之ヲ本令ニ依リ設立シタル小學校中  
學校及高等女學校トス

尋常小學校ノ修業年限ハ當分ノ内土地  
ノ情況ニ依リ之ヲ四年ト爲スコトヲ得

前項ノ尋常小學校ノ各學年ノ在學者又  
ハ卒業者ハ其ノ轉學又ハ入學ノ資格ニ  
關シテハ修業年限六年ノ尋常小學校ノ  
相當學年ノ在學者又ハ第四學年ノ修了  
者ト看做ス

從前ノ規定ニ依ル普通學校高等普通學  
校又ハ女子高等普通學校ノ卒業者ノ入

學資格ニ關シテハ修業年限六年ノ普通  
學校ノ卒業者ハ尋常小學校卒業者修業  
年限四年ノ普通學校ノ卒業者ハ修業年  
限六年ノ尋常小學校ノ第四學年修了者  
修業年限六年ノ普通學校ノ卒業者ニシ  
テ普通學校高等科ノ第一學年ヲ修了シ  
タル者ハ高等小學校第一學年修了者普



通學校高等科ノ卒業者ハ修業年限二年  
ノ高等小學校ノ卒業者、高等普通學校卒  
業者ハ中學校卒業者、女子高等普通學校  
卒業者ハ相當修業年限ノ高等女學校ノ  
卒業者ト看做ス

勅令第 號

奏任文官特別任用令中左ノ通改正ス  
「臺灣總督府專賣局副參事」ノ次ニ「臺灣總  
督府税關關税官」ヲ加フ

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス